

共同利用・共同研究に関わる各種お知らせ

共同研究専門委員会よりお知らせ

共同利用は大学共同利用機関である分子科学研究所にとって基幹的なアクティビティである。この研究所の柱とも言うべき共同利用は、昨今のコロナ禍において遅滞を余儀なくされてきた。移動や対面の自粛は従来のスタイルによる共同研究や研究集会が遂行できないことを意味し、on-siteでの共同実験や対面での議論の場は壊滅的な打撃を受けた。しかしこの3年間（2020-2022年度）においても、共同利用を提供する我々分子研サイドとしては決して歩みを止めずに共同利用の内容充実に努めてきたつもりである。すなわちUVSORでは汎用性のある先端利用、先端的顕微分析手法の共同利用提供、また結晶スポンジ法による分子構造解析などに代表される分子研ならではの世界的にも優位性のある共同利用が展開されつつあり、またクロスアポイント教員が先導する共同利用の新展開も実りつつある。さらにNMRプラットフォームの共同利用展開も開始された。この間、on-webによる研究会実施のプラットフォームの提供も定着し、新たな研究会や情報交換のスタイルが定着した。これらの展開によってコロナ禍にあってもなんとか全国共同利用の活動を死守し維持してきた3年間であった。また共同利用の変革と連動してコロキウム、大学院入試、所内会議など研究所内の多くの活動が大きな変化を遂げた。

2022年後半からようやく国内外の旅行を含めた様々な活動制限が緩和され漸くポスト・コロナ、ウィズ・コロナの生活の形が見えてきた。2023年度には、コロナ禍において確立したon-webでの活動と、従来のon-siteの共同利用が両立共存することになりそうである。両方の「いいとこ取り」をしてコロナ以前のアクティビティを越える活発な共同利用を実現していきたい。

共同利用研究の実施状況（採択件数）について

種別	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度 (12月31日現在)
課題研究	4	2	4	2	2	2	4
協力研究	82	73	45	37	53	47	47
協力研究（マテリアル） <sup>(注3)</sup>	57	64	81	69	44	66	36
協力研究（NMRプラットフォーム） <sup>(注4)</sup>	-	-	-	-	-	3	-
分子研研究会	7	9	10	7	4	4	5
若手研究活動支援	1	2	1	2	1	2	1
岡崎コンファレンス	3	0	1	2	0	0	0
計	147	150	142	119	104	124	93

(注1) 課題研究・協力研究の通年課題は前期と後期の2期分として、1課題を2として年度計に表す。

(注2) 新型コロナウイルスの影響により研究期間を延長した前期課題は後期の件数に計上しない。

(注3) 2021年度まで「協力研究（ナノテクノロジープラットフォーム）」の件数、2022年度以降は「協力研究（マテリアル先端リサーチインフラ）」の件数。

(注4) 協力研究（NMRプラットフォーム）は2021年7月1日から2022年3月31日まで実施。

分子研研究会

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2022年8月31日	森野ディスカッション	宗像 利明（公益信託分子科学奨励森野基金）	144名
2022年9月26日～27日	金属酸化物表面と薄膜の構造化学	大西 洋（神戸大学大学院理学研究科）	33名
2022年9月28日～29日	イオン液体の構造と物性予測のデータ解析技術	阿部 洋（防衛大学校機能材料工学科）	67名
2022年11月8日	軟X線共鳴散乱・反射率 ソフトマテリアル・ソフトマターのナノ～メソスケール構造解析	荒木 暢（Diamond Light Source, Physical Science）	78名
2022年11月28日	UVSOR-IIIにおける多様な量子ビームの発生と先端利用に関する研究会	平 義隆（分子科学研究所 極端紫外光研究施設）	39名

若手研究会等

開催日時	研究会名	提案代表者	参加人数
2022年8月3日～5日	第20回 ESR夏の学校：ESR装置の基礎と原理・生体応用	平野 弘樹（神奈川大学大学院理学研究科理学専攻）	70名